

高知県感染症発生動向調査（週報）

2020年 第31週 （7月27日～8月2日）

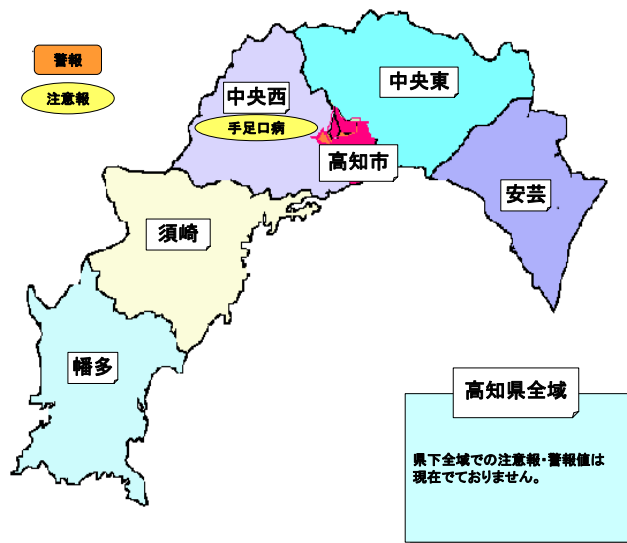
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患5疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	↗	1. 79	中央東で減少していますが、県全域、高知市で増加しています。
手足口病	↗	1. 14	高知市で減少していますが、中央東で急増、県全域、中央西で増加し、中央西では注意報値を超えています。
咽頭結膜熱	→	0. 43	中央東で急減していますが、須崎で急増、高知市で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	0. 39	中央西で急減、高知市で減少していますが、幡多、須崎、中央東で急増しています。
突発性発疹	↘	0. 39	中央西で急減、県全域、須崎、高知市で減少しています。

★地域別感染症発生状況



【感染症予防の基本】

手洗い：感染症予防の基本は手洗いです

・爪は短く切っていますか？

・指輪・時計ははずしていますか？

- ① 石けんを泡立て、手のひらをよくこすります
- ② 手の甲、指の間や指先、ツメの間まで丹念にこすります
- ③ 親指をねじり洗いし、手首も忘れずにあらいます
- ④ 石けんを洗い流し、清潔なタオルで拭き取って乾かします

汚れの残りやすいところも丁寧に：指先、指の間、爪の間、親指の周り、手首、手のしわ
タオルの共有は避けましょう



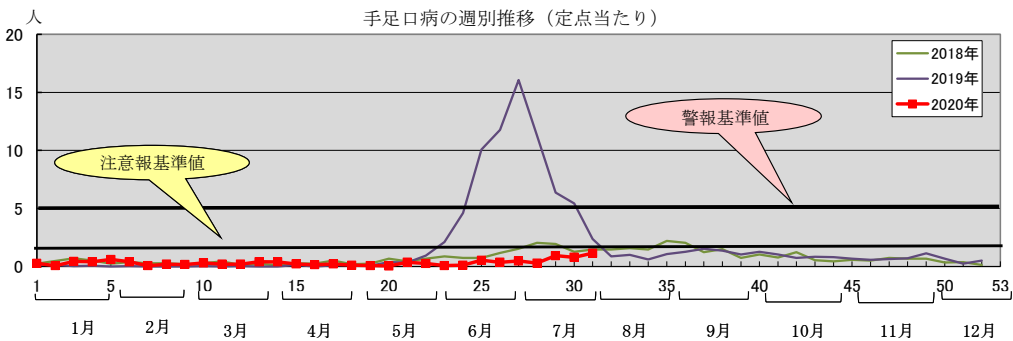
★県内で注目すべき感染症（注意点や予防方法）

夏型感染症（手足口病・咽頭結膜熱）が増加しています

○手足口病に気を付けて！

この病気は、4歳くらいまでの幼児を中心に夏季に流行が見られる疾患です。2歳以下が半数を占めますが、学童でも流行的発生がみられることがあります。特に、この病気にかかりやすい年齢層の乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などでは注意が必要です。

通常は3～5日の潜伏期をおいて、口の中、手のひら、足の裏や足背などに2～3mmの水疱性発疹ができます。ほとんどの発病者は数日間のうちに治る病気ですが、ごくまれに髄膜炎や脳炎などを生じることがありますので、高熱や嘔吐、頭痛などがある場合は注意してください。また、倦怠感や口腔内の痛みなどから食事や水分を十分にとれず、脱水になることもありますので、こまめな水分補給を心がけてください。



<予防方法>

- ・手洗い・うがいが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。
- ・タオル・コップ等は別のものを使い、感染者との密接な接触はさけるようにしましょう。
- ・回復後にも2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されることがあるので、特に、外出後、食事の前、トイレの後に手洗いをしましょう。

【学校感染症】

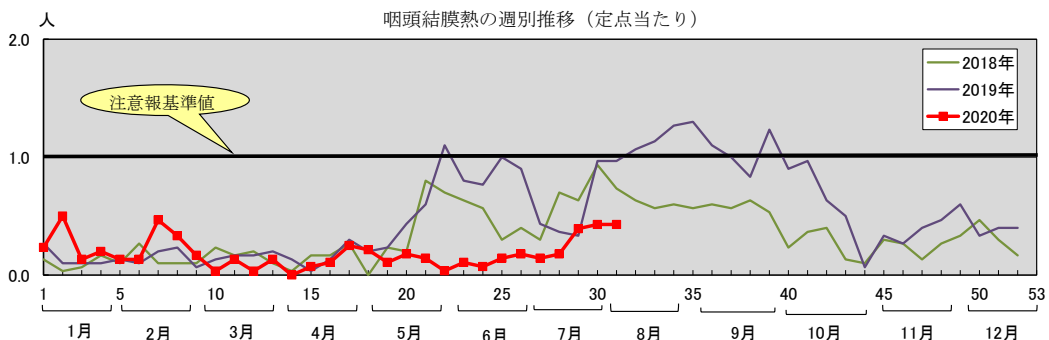
手足口病は学校保健安全法（同法施行規則第19条）では、条件によっては出席停止の必要がある第3種の感染症の「その他の感染症」となります。出席停止期間の基準は「発熱や喉頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身症状が改善すれば登校可能」ただし、この出席停止期間は病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない」と規定されています。

○咽頭結膜熱に気を付けて！

発熱・咽頭炎及び結膜炎を主症状とする急性のウイルス感染症です。

潜伏期は5～7日で、症状は発熱、咽頭炎（咽頭発赤、咽頭痛）、結膜炎が三主症状です。

小児、特に5歳以下に多く、例年5月中旬から下旬頃にかけて患者数が増加し始め、7月下旬から8月上旬をピークとする流行が見られる夏期の疾患で、プールを介して流行することが多いことから、「プール熱」とも呼ばれています。



<予防方法>

- 流行時には流水と石けんによる手洗い、うがいを励行しましょう
- 感染者との密接な接触は避けましょう
- タオル等は別のものを使いましょう

【学校感染症】

咽頭結膜熱は学校保健安全法（同法施行規則第19条）では、出席停止期間の基準が「主要症状が消失した後2日を経過するまで」と規定される学校感染症（第2種）です。ただし、この出席停止期間は病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでないと規定されています。

ダニの感染症（SFTS・日本紅斑熱）に注意！

第31週に安芸福祉保健所で「日本紅斑熱」の発生届けが1例報告されています。

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は、屋外に生息するダニの一種で比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生環境研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★全数把握感染症

	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結 核	1	39	50歳代 男	須 崎
4類	日本紅斑熱	1	18	90歳代 女	安 芸
	レジオネラ症	1	4	70歳代 女	高知市

★定点医療機関からのホット情報

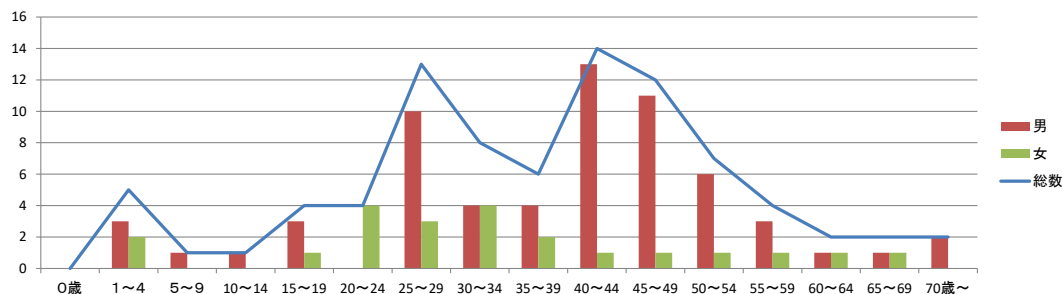
保健所	医療機関	情 報
中央東	おひさまこどもクリニック	アデノウイルス咽頭炎 1例（1歳女）
	高知大学医学部付属病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 1例（1歳女）
	JA 高知病院小児科	マイコプラズマ気管支炎 2例（4歳男 2人）
高知市	高知医療センター小児科	アデノウイルス 1例（1歳男）
	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス咽頭炎 5例（0歳1人、1歳4人） カンピロバクター腸炎 2例（1歳、8歳）
	福井小児科・内科・循環器科	手足口病 2例 ヘルパンギーナ 3例 熱中症症状の小児数名
	細木病院小児科	サルモネラ 1例（2ヶ月女）
中央西	石黒小児科	ヘルペス性歯肉口内炎 1例（1歳男）
須 崎	大西病院小児科	アデノウイルス扁桃炎 1例（1歳女）
	もりはた小児科	マイコプラズマ肺炎 2例（2歳女、7歳男）
幡 多	こいけクリニック	アデノウイルス 1例（10ヶ月女）
	さたけ小児科	帯状疱疹 1例（12歳男） アデノウイルス 1例（3歳男）

★県外で注目すべき感染症

○風しん、先天性風しん症候群を予防しましょう

2020年第1週～第30週の累積報告数は85人となっており、そのうち87%（74人）が成人で、25歳から50歳代の男性が中心（男性63人、女性22人）となっています。

2020年累積風しん報告数(年齢別・性別)



妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんにも感染し「先天性風しん症候群」という病気にかかってしまうことがあります。

風しんの予防にはワクチンを接種し、風しんに対する免疫を獲得することが有効です。風しんに対する十分な免疫があるかどうかは、抗体検査で確認することができます。

赤ちゃんが生まれつきの病気にならないよう家族みんなで風しん抗体検査を受け、免疫がない場合は予防接種を受けることをご検討ください。

【無料の風しんの抗体検査について】

現在県内では2つの事業で「風しん」に対して十分な免疫があるかどうか確認するため無料の抗体検査を実施しています。

対象者：高知県内在住（住所を有する者）の妊娠を希望する女性

- ・妊娠を希望する女性または風しんの抗体価が低い妊婦の配偶者など（生活空間を同一にする頻度が高い方。婚姻の届けを出していないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある方を含む）
- ・風しんの追加的対策として、1972年（昭和47）年4月2日から1979年（昭和54）年4月1日生まれの男性について、一括してクーポン券を配布

1962（昭和37）年4月2日から1972（昭和47）年4月1日生まれの男性については、本人がクーポン券を希望する場合において、住所地の市町村が個別に発行

検査受付：実施医療機関ごとに異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください（住所を証明する書類（運転免許証や健康保険被保険者証等）を持参ください）

検査結果：検査後1～2週間後に郵送もしくは再来院にてお知らせいたします

●厚生労働省「風しんの追加対策について」（風しん抗体検査・風しん第5期定期接種受託医療機関）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

●無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/2020051200219.html>

●風しんの追加的対策 Q&A（対象者向け） <https://www.mhlw.go.jp/content/000493833.pdf>

●風しん Q&A2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

●風しんについて（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/

◆国内における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の状況（2020年第28週現在）

（国立感染症研究所 IDWR2020年第28号より）

2019年12月、中華人民共和国湖北省武漢市において確認され、2020年1月30日、世界保健機関（WHO）により「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言され、3月11日にはパンデミック（世

界的な大流行)の状態にあると表明された新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、2020年7月15日15時現在、感染者数(死亡者数)は、世界で13,286,266例(578,342例)、190カ国・地域(集計方法変更:海外領土が本国分に計上)に広がった。

国内では、厚生労働省からの報道発表によると、2020年7月15日0時現在、新型コロナウイルス感染症のPCR検査陽性者22,508例、うち死亡者984例と報告されている。PCR検査実施人数は586,706例であった。また、2月3日に横浜港に到着したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」については、7月15日0時現在、PCR検査陽性者712例、うち無症状病原体保有者331例、死亡者13例であった。

本稿では、2020年2月1日に新型コロナウイルス感染症が指定感染症となった以降、第28週(2020年7月15日)までに感染症発生動向調査(NESID)へ届け出られた21,088例(患者18,474例、無症状病原体保有者2,582例、感染症死亡者の死体32例)(以下、症例という)に関する記述疫学および予備的なリスク状況について解説するものである。なお、本症については、サーベイランスシステムが届出に対応可能となった以降に届け出られた情報のみ反映されていることから、国や自治体の報道発表情報と必ずしも一致しておらず、注意が必要である。すなわち、以後の情報はNESIDに届け出られた症例全体の内訳であり、また、自治体による確認が行われていない報告は含まれていない。

また、令和2年5月29日以降、新型コロナウイルス感染症発生届に関する国への報告事務は、厚生労働省が運営する新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム(HER-SYS)を用いて行われることとなり、7月15日現在、移行可能な自治体から順次、移行がおこなわれているところである。厚生労働省においては、今後の統計情報の集計等については、HER-SYSに入力された情報に基づいて行うことを基本としている。本稿では、NESIDに対する届出情報のみが対象であり、HER-SYSのみへの届出情報は含まれていない点で注意が必要である。

症例の性別は、男性11,804例、女性9,284例(男女比1.3:1)であり、男性に多かった。年齢の中央値は45歳(範囲0?105)であった。年代別分布は10歳未満390例(1.8%)、10代568例(2.7%)、20代4,483例(21.3%)、30代3,439例(16.3%)、40代3,042例(14.4%)、50代3,097例(14.7%)、60代2,193例(10.4%)、70代1,978例(9.4%)、80代1,331例(6.3%)、90代以上567例(2.7%)であった。

届出時点の主な症状(重複あり)は、発熱15,467例(73.3%)、咳8,598例(40.8%)、咳以外の急性呼吸器症状1,801例(8.5%)、重篤な肺炎1,199例(5.7%)であった。

届出都道府県は、東京都8,251例、神奈川県2,285例、大阪府2,072例、埼玉県1,153例、千葉県1,094例、北海道1,049例、福岡県763例、兵庫県710例、愛知県525例、京都府364例、石川県300例、富山県226例、茨城県169例、岐阜県154例、広島県153例、群馬県149例、沖縄県141例、宮城県102例、滋賀県99例、福井県98例、奈良県90例、静岡県87例、新潟県83例、福島県82例、愛媛県82例、長野県76例、高知県75例、山形県67例、栃木県66例、和歌山県66例、大分県60例、山梨県46例、三重県46例、熊本県46例、佐賀県42例、山口県37例、青森県30例、香川県27例、岡山県25例、島根県24例、長崎県21例、宮崎県17例、秋田県16例、鹿児島県11例、徳島県6例、鳥取県3例であった。

NESID上、7月15日現在、報告数については4月9日(660例)、発症数については4月1日(433例:発症日の判明している症例のみ)をピークとする流行が見られた。また、6月中旬から、報告数及び発症数の増加が認められており、再び警戒が必要な時期を迎えている。6月中旬からの増加は、現在のところ主に大都市及びその周辺自治体における20代~30代を中心としているとNESID上からも考えられ、今後、これらの増加が地方都市及びその他の年齢層へ拡大していく可能性が非常に高いと考える。6月1日~7月15日において、重症(重篤な肺炎/急性呼吸窮迫症候群/多臓器不全のいずれかを呈する症例)または死亡であった症例27症例の報告があった。7月15日現在、一定数を認めており、今後の動向に警戒が必要である。

また、NESID報告数を取りまとめた本稿は、HER-SYS導入以降、過小評価になっている可能性があることから注意が必要である。

国内での行政対応については、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」に従い、国民の生命を守るため、感染者数を抑えること及び医療提供体制や社会機能を維持することが重要とされ、「三つの密」(密閉空間・密集場所・密接場面)を避けること、積極的疫学調査等によるクラスターの発生の封じ込めが現在も推進されている。3月中旬から5月中旬に認められた報告数の増加は、一旦落ち着いたことから、全都道府県で緊急事態宣言の解除が行われ(5月25日)、全国を対象に県境を越える移動自粛が全面的に解除された(6月19日)ところである。しかし、現在、再び報告数、発症数、及び入院治療等を要する者の数等の増加を認めていることから、各自治体では、前回の流行の経験をもとに、各地域の流行状況に合わせた対応を実施している。

.....

★高知県の新型コロナウイルス感染症情報

高知県庁ホームページ：<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/111301/info-COVID-19.html>

高知県の保健所別新型コロナウイルス感染症報告数

			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	総計
7月	13	月				75			1
	14	火							
	15	水							
	16	木					76		1
	17	金							
	18	土							
	19	日							
	20	月							
	21	火							
	22	水			77				1
	23	木							
	24	金				78			1
	25	土							
	26	日		79					1
	27	月							
28	火			80				1	
29	水								
30	木								
31	金								
8月	1	土							
	2	日			81				1
	総計		2	5	47	6	0	21	81

数字は症例番号 青は男性 赤は女性

総計は2月28日以降の感染者

5月・6月及び7月12日までの報告は無し

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2020年8月3日現在の情報により作成
しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあ
りますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

★高知県感染症情報
疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報(57定点医療機関)

第31週 令和2年7月27日(月)～令和2年8月2日(日)

高知県衛生環境研究所

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡豆	計	前週	全国(30週)	高知県(31週末累計)		全国(30週末累計)	
												R1/12/30~R2/8/2	R1/12/30~R2/7/26		
ワイルド インフル エンザ	インフルエンザ								()	()	4 ()	7,096 (147.83)	562,881 (114.04)		
小児科	咽頭結核熱		1	7			1	3	12 (0.43)	12 (0.43)	517 (0.16)	168 (5.60)	21,226 (6.73)		
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎		2	5			1	3	11 (0.39)	11 (0.39)	2,226 (0.71)	1,262 (42.07)	152,618 (48.39)		
	感染性胃腸炎	2	4	30	4			10	50 (1.79)	40 (1.43)	5,478 (1.74)	1,789 (59.63)	276,308 (87.61)		
	水痘		5						5 (0.18)	5 (0.18)	343 (0.11)	141 (4.70)	20,959 (6.65)		
	手足口病		13	7	9	2	1		32 (1.14)	22 (0.79)	378 (0.12)	292 (9.73)	9,521 (3.02)		
	伝染性紅斑				2				2 (0.07)	4 (0.14)	56 (0.02)	220 (7.33)	17,338 (5.50)		
	突発性発疹		3	2	1	1	4		11 (0.39)	15 (0.54)	1,543 (0.49)	306 (10.20)	34,843 (11.05)		
	ヘルパンギーナ			4					4 (0.14)	2 (0.07)	1,260 (0.40)	38 (1.27)	6,167 (1.96)		
	流行性耳下腺炎			2					2 (0.07)	1 (0.04)	140 (0.04)	70 (2.33)	4,663 (1.48)		
	RSウイルス感染症								()	()	42 (0.01)	174 (5.80)	12,274 (3.89)		
眼科	急性出血性結膜炎								()	()	4 (0.01)	()	126 (0.18)		
	流行性角結膜炎			1					1 (0.33)	()	110 (0.16)	10 (3.33)	5,592 (8.06)		
基幹	細菌性髄膜炎								()	()	3 (0.01)	2 (0.25)	256 (0.54)		
	無菌性髄膜炎								()	()	10 (0.02)	1 (0.13)	271 (0.57)		
	マイコプラズマ肺炎			1					1 (0.13)	5 (0.63)	29 (0.06)	78 (9.75)	2,871 (6.02)		
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)								()	()	1 ()	()	47 (0.10)		
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)								()	()	()	6 (0.75)	211 (0.44)		
計	2	28	59	16	5	21		131			12,144	11,653	1,128,172		
小児科定点当たり人数	(1.00)	(4.00)	(6.33)	(5.33)	(2.50)	(4.20)		(4.60)				(296.49)			
前週 (小児科定点当たり人数)	5 (2.50)	24 (3.28)	49 (5.00)	14 (4.67)	5 (2.50)	20 (4.00)			117 (4.01)						

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(57定点医療機関) 定点当たり人数

第31週

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡豆	計	前週	全国(30週)	高知県(31週末累計)		全国(30週末累計)	
												R1/12/30~R2/8/2	R1/12/30~R2/7/26		
ワイルド インフル エンザ	インフルエンザ											147.83	114.04		
小児科	咽頭結核熱		0.14	0.78			0.50	0.60	0.43	0.43	0.16	5.60	6.73		
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎		0.29	0.56			0.50	0.60	0.39	0.39	0.71	42.07	48.39		
	感染性胃腸炎	1.00	0.57	3.33	1.33			2.00	1.79	1.43	1.74	59.63	87.61		
	水痘		0.71						0.18	0.18	0.11	4.70	6.65		
	手足口病		1.86	0.78	3.00	1.00	0.20		1.14	0.79	0.12	9.73	3.02		
	伝染性紅斑				0.67				0.07	0.14	0.02	7.33	5.50		
	突発性発疹		0.43	0.22	0.33	0.50	0.80		0.39	0.54	0.49	10.20	11.05		
	ヘルパンギーナ			0.44					0.14	0.07	0.40	1.27	1.96		
	流行性耳下腺炎			0.22					0.07	0.04	0.04	2.33	1.48		
	RSウイルス感染症										0.01	5.80	3.89		
眼科	急性出血性結膜炎										0.01		0.18		
	流行性角結膜炎			1.00					0.33		0.16	3.33	8.06		
基幹	細菌性髄膜炎										0.01	0.25	0.54		
	無菌性髄膜炎										0.02	0.13	0.57		
	マイコプラズマ肺炎			0.20					0.13	0.63	0.06	9.75	6.02		
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)												0.10		
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)											0.75	0.44		
計 (小児科定点当たり人数)	1.00	4.00	6.33	5.33	2.50	4.20		4.60				296.49			
前週 (小児科定点当たり人数)	2.50	3.28	5.00	4.67	2.50	4.00			4.01						

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2020年 第31週)

